古石ひでさと4期目に向かっての議会活動 ひでさと
古石 後援会だより
URL：http://古石.com/
第 3838号
発行令和３年８月
古石 ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南１条１丁目
E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

岩見沢加工用トマトの主産地へ

加工用トマトの主産地へ

いわみざわ農協

4年後、作付け3倍30㌶

カゴメなどと拡大協定

加工用トマト産地拡大に向けた連携協定
KAGOME
YANMAR

㊤協定書を締結したいわみざわ農協の引頭一宏組合長（中央）ら ㊦専用機で行う加工用トマトの収穫作業

【岩見沢】いわみざわ農協と食品メーカー大手のカゴメ（名古屋）、農機具製造販売のヤンマーアグリジャパン北海道支社（江別）は2日、加工用トマトの産地拡大に関する協定を結んだ。カゴメが道内で同様の協定を結ぶのは初。同農協は2025年までに管内の作付面積を現在の3倍の約30㌶に増やす方針で、新たな主要作物に育てたい考えだ。（斉藤千絵）

「空知型輪作」の一角に

協定は、栽培技術の改善や収穫機のメンテナンスなどに関する5項目。同農協は作付面積の拡大と栽培技術の確立に取り組み、カゴメは安定的な購入と輸送、岩見沢に適した品種改良などを担う。ヤンマーは岩見沢支店に担当チームを設置し、収穫機の点検やメンテナンスを行う。

野菜飲料などに使われる加工用トマトは近年、特にコロナ禍での健康志向で需要が高まっている。カゴメは産地拡大に向けて、国内初の専用収穫機をヤンマーと共同開発。機械を活用しやすい広大で平たんな農地を持つ岩見沢に着目し、同農協に連携を働きかけた。

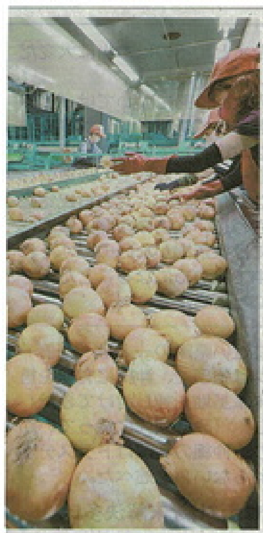
一方、同農協は輪作を中心に大豆や麦を育てる「空知型輪作」に取り組んでおり、加工用トマトを輪作体系に組み込むことで新たな収益源とし、連作障害の解消につなげたい考え。収穫を機械で行うため、農業者の高齢化や担い手不足が進む中、作業の効率化にもつながると期待される。

道内全体の加工用トマトの作付面積は17㌶で、今後の産地拡大で岩見沢が道内主産地となる見込みだ。

オンラインで行われた締結後の会見で、同農協の引頭一宏組合長は「労働力問題解決の一つの道筋を示していただいた。加工用トマトの主産地としての地位を確立していきたい」とあいさつ。カゴメの橋本隆取締役専務は「産地拡大と安定購入を通して、北海道の農業振興に貢献していきたい」と述べた。

道内農作物不作 高温少雨響く

今夏 劣化や収量減／晩生種で回復か



㊤出荷最盛期を迎えた北見市のきたみらい農協のタマネギ集出荷施設＝2日（高橋義英撮影）㊦高温の影響で花が落ち、実の数が減っている北斗市のトマト農家＝7月30日（桶谷駿矢撮影）

道内は今夏、記録的な高温少雨となり、地域によってばらつきはあるものの、全道的に農作物の収量減や品質低下が起きている。市況も道産の供給不足でジャガイモの卸売価格が一時、平年より4割高くなるなどの影響が出ている。ただ、品目によっては収穫時期が遅い晩生種で収量が回復する可能性もある。（池野上遥、朝生樹、生田憲）

北斗市のトマト農家、岡村栄士さん㊼のビニールハウスでは7月から8月中旬の高温で花が落ち、例年は1房に4、5個の実が1、2個に減った。8月下旬には気温が急激に下がり、実の劣化が進んで割れが目立つものもあるという。これからは病気が繁殖しやすい季節といい、岡村さんは「高温で収穫量が減少している中、貴重な実を病気にかけられない」と話す。

タマネギ生産量日本一の北見地方では、オホーツク海沿岸と内陸で様相が異なる。沿岸で乾燥しやすい北見市常呂では、6、7月に雨が計13・5ミリしか降らなかった。生産量は平年をやや下回る見通し。タマネギの球も大きくならず、安いM玉の割合が増え、「農家所得は昨年ほどにならない」（常呂町農協）という。

一方、きたみらい農協（北見）は内陸で比較的雨に恵まれ、一部の畑ではスプリンクラーの散水も功を奏し、平年並みの約25万トンの生産を見込む。同農協玉ねぎグループの小沢克也マネージャーは「規格外の割合はあまり変わらず、品質は良好」と話す。ただ、昨年まで豊作が続いていただけに、生産者でつくる「きたみらい玉葱振興会」の加

花咲港だけ…異例のイカ豊漁

8月取扱量263㌧ 前年の10倍超

専門家「暑さ、高気圧で群れ北上」

【根室】道南などでスルメイカの深刻な不漁が続く中、根室・花咲港が記録的な豊漁に沸いている。8月の取扱量は計約263㌧と前年同月の10倍を超えた。8月初旬の暑さなどの影響とみられるが、イカの生態に詳しい桜井泰憲・北大名誉教授は「全国的に資源量が少なくなっている中で特異な現象」と驚いている。（川口大地）

根室・花咲港で水揚げされるスルメイカ＝8月24日

根室沖でのスルメイカ漁は7月下旬～10月、主に道南や青森県などのイカ釣り漁船が根室市内各港から出漁し、約20㌔ほど沖合で操業する。取れたイカは花咲港に集められ、花咲市場で競りにかけられる。一昨年の取扱量は709㌧で、ここ数年は年数百㌧にとどまっていた。

ところが、今年は8月下旬から急増し、連日のように20～40㌧台の大漁が続いた。

渡島管内福島町の福島吉岡漁協所属の第28喜久丸（19㌧）の漁労長、桜庭正巳さん(64)は「今年は新潟県沖の日本海が不漁なので、5年ぶりに花咲港沖で操業している」と話す。

根室沖の豊漁にもかかわらず、浜値は高騰している。花咲市場での8月中の最高値は20㌔当たり1万3147円で、前年同月の最高値を2割ほど上回った。市場関係者は「根室で水揚げが増えても、道内全体で見れば資源量は依然として少ないので値は高止まりしている」という。

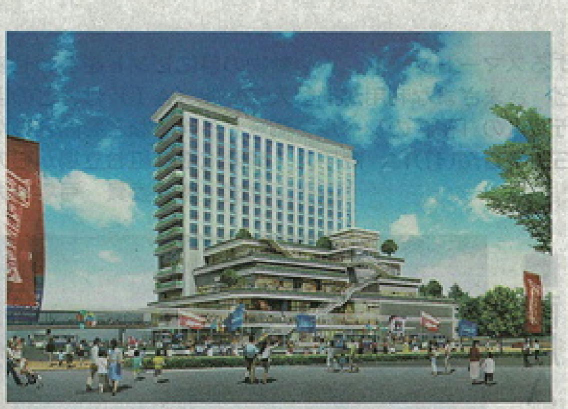
桜井名誉教授は根室沖での豊漁について、8月初旬の暑さとオホーツク高気圧の影響で「スルメイカの生息する水深50㍍の海水温がイカの好む12度となり、日本海にいた群れの一部が突発的に北上した」と分析する。

根室沖に群れがとどまるのは9月いっぱいで「その後は産卵場の日本海に戻るだろう」とみている。

北広島駅前ビル 20～30テナント

概要公表 24年秋開業

【北広島】北広島市は3日、2023年のプロ野球北海道日本ハムの新球場開業を見据えたJR北広島駅前の再開発計画で、中核施設となる複合ビルの概要を明らかにした。地下1階地上14階建てで、高層階に150室程度のホテル、低層階に飲食店や衣料品店など20～30店舗が入り、フードコートなども設ける。24年秋に開業予定。



JR北広島駅前に整備される複合ビルのイメージ図（市提供）

再開発計画は駅前の市有地4カ所計2万5千平方㍍で、不動産業の日本エスコン（東京）が整備する。複合ビルは鉄筋コンクリート造り、延べ床面積1万8千平方㍍。ホテルは「SQUEEZE（スクイーズ）」（東京）が運営する予定で、4、5階にラウンジやカフェテラス、7～14階に客室を設ける。1～3階には、地元の農産物や加工品を扱う飲食店などのテナントが入る。

再開発計画では、「北海道ボールパークFビレッジ」（BP）と結ぶシャトルバスターミナルや、公園機能を備えた「憩いの場」なども整備する。市の佐藤直人企画課長は「新たなマチの顔としてBPと連動し魅力的な場所にしたい」と話している。（後藤耕作）

大阪ガスの風力発電 蘭越、寿都で商業運転

【蘭越、寿都】大阪ガスは3日、グループ会社が後志管内蘭越町と寿都町に建設した尻別風力発電所（出力2万7千㌔㍗）が同日、商業運転を開始したと発表した。西日本を拠点としてきた大阪ガスが道内に設けた初の発電拠点で、総事業費は50億円超。

同発電所は尻別川河口付近の蘭越側に4基、寿都側に6基の発電機を設置。蘭越側にメンテナンス要員を置き、発電した電気は全量を再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度（FIT）を使って北海道電力ネットワークに売電する。

年間発電量は7千万㌔㍗時で、両町の世帯数の約4倍に当たる1万7500世帯分の電気を供給する。

3日に商業運転を開始した尻別風力発電所（大阪ガス提供）

大阪ガスは2030年度までに国内の電力事業における再エネ比率を50％程度に高めることを目指しており、全国を対象に電源の開発を進めている。（宇野沢晋一郎）